



## 「たかがゴルフ、されどゴルフ」なんちゃって…

ゴルフに疎(うと)い自分が言うのもおかしいのですが、今は何回目かのゴルフブームなのでしょう。テレビには毎日というほど「遼くん」や「藍ちゃん」が映っています。追いかけるギャラリー(見学者)はほとんどが大人のゴルファー。近くの練習場に行くと、週日だというのにほぼ満員に近い状態です。もっとも大部分は、毎日出勤する必要のないシニア世代か女性のような感じですが……。

なぜ私が疎いのか。それはゴルフとは縁遠い現役時代の環境からきています。その上、当時は“ゴルフなんて金持ちの贅沢スポーツ”と決めつけていました。ところが、定年になって、高校の同期生の集いに出ると、ゴルフの話題がけっこう多い。そこで、私もまじめ一本だった(?)自分の世界を広げようと、60を過ぎて初めてクラブなるものを握ったのです。

ありがたいことに、コンペ(競技)に参加するようになると、仲間が手をとるように身体の硬いビギナーの私にアドバイスをしてくれました。やがて“ゴルフの個人教師”を申し出てくれる同期の友人も出てきたのです。

最初のころは、打ったボールはコースを外れ右の林や左の谷に、ホール前のバンカー(トリックのための砂地)や池に落ちたりして、さんざんなスコア。7年目の今も1ラウンド120打前後。ブービーメーカー(「ブービー<最下位から2番目>」をつくるとの意)で、ビリツケツの域を抜け出せないでいます。それでも、たまたまドライバー(最初の一打)が調子よく飛んだりすると、グループ仲間の3人から「ナイスショット!すごいねえ!」なんてホメ言葉をもらったりするのです。

お世辞と判っていても嬉しいもの。それに「パチッ」とクラブヘッドの手ごたえが良かったとき、遠くまで飛んでいくボールを目で追う快感はたえられません。

昨年夏は、初めて同期の合宿にも参加しました。栃木県の山岳コースで、前日は練習



昨年秋のコンペで。へっぴり腰だなあ!

ラウンドで翌日は本番のラウンド。宿泊ホテルでは、夕食会で盛り上がった後、カラオケやマージャンに興ずる仲間たち。卒業後、いわゆる“出世組”も自分のような“並み組”(でいいのかなあ?)もなく「オレ、オマエ」で、損得とは関係ない世界で語り合えるのは実に楽しいものです。

少しばかりやみつきになり、今度は地元のシニアクラブ(老人会)のコンペにも参加しました。ところがここで

もビリッケツ。思うようにボールが飛ばない自分を見て、仲間の一人が言ったものです。

「清水さん、ゴルフは年季だよ、年季！それに、どれだけつぎ込んだかだよ。ボクなんかもう 30 年以上になるけど、ウン百万円じゃきかないだろうネ！」

そんなこと言われたって、こっちはその“つぎ込むモノ”がない。それに定年になったといっても現役時代より忙しいくらいの自分の場合、なかなか時間もとれない。

昔だったら「ゴルフなんかやっていていいの？」なんて言われたかもしれませんが、今は「健康管理と人脈を広げるために」なんて口実にしています。新鮮な空気を吸いながら新緑の林や山の中を歩き回るのは、仮にスコアが悪くても、十分に精神的にも満足させられるのです。

学校の成績と同じように、ビリッケツはそれ以上落ちることはありません。あとは上がってだけです。だから私の前途は洋々と開けているわけですね。

ブービーと ビリッケツでも 夢高く

**Seniors be ambitious!**